

横山泰介

『湘南のTTTO』8

横山泰介 / 人選・撮影

ジョージ・カックル (47歳) 音楽プロデューサー

この写真は、先ごろ、材木座の海の家エイジアで行なわれた、ティピティナの20周年パーティーの時のものである。ティピティナは、音楽好きが集まる鎌倉のバーで、ジョージもこの店の常連だ。さて、写真の真ん中で真ん中で帽子をかぶっているのがジョージ。後ろに居るのは、右から、桑名晴子、林立夫、今剛、そして、かまやつひろしという、そうそうたるミュージシャンたちである。アメリカ人の父と、日本人の母を持つジョージ。鎌倉で生まれ、小学3年までは鎌倉で育った。しかしその後、父の仕事の関係で、立川、テキサス、韓国などを点々とし、高校を卒業するまでに11の学校を渡り歩いた。高校卒業後は、上智大学に入学したが、新宿のロック喫茶で働き、大学が面白くないからとインドに出かけ、そのまま約2年間世界を放浪した。さらにその後、サンフランシスコに18年住んだ後、鎌倉に戻り、結婚して、現在は鎌倉に住んでいる。サンフランシスコに住んだのは理由はサーフィン。海は冷たいけれど波が豊富なサンフランシスコで、波乗り明け暮れた。仕事のほうは、撮影関係や、クルマの修理、ガソリンスタンド、あるいはカリフォルニア大学での海水温度の研究など、さまざまな職業に就いてきた。現在は、バンドのマネージメントやアルバム制作、レコーディングのコーディネートションなど音楽関係全般を手がけるWhat's Up Groupを経営している。最近では、カヴァイハエやウクレレサミットなど、ハワイアンに力を入れている。しかし一方で、パメイニアやエヒなどのロックや、環境音楽のあざみ、元ウイंकの鈴木早智子などもプロデュースする。「ジャンルがどうつていうよりも、クオリティの高い音楽をやりたいんだよね。そうすれば、今売れなくても、10年後に売れるかもしれない。その点は守り続けたい」(What's Up Group)。そのポリシーはそのまま、彼の人生にまわっているのかもしれない。

